

III - 2

桜美林学園の創立と展開
学園行事と教職員

学園の諸行事

卒業式や入学式など、学校生活を彩る学校行事のほかに、学生・生徒・園児とその保護者、卒業生、社会に向けてさまざまな法人行事を実施してきた。周年記念行事はその一つで、1946年の学園設立を起点にイベントや記念式典を開催している。2011年からは、崇貞学園創立の1921年を起点とし、90周年、そして100周年の記念行事を行っている。

また、キリスト教主義の学園として、教会暦に合わせた行事も行っている。アドベント礼拝に合わせて行われるイルミネーションの点灯式には、毎年多くの学生・生徒が集いアドベントを祝う。



■ クリスマスイルミネーション点灯式 (2011年11月22日)
毎年行われるイルミネーション点灯式での大学クワイヤーの合唱。



■ 桜寮最後のクリスマス会 (2018年12月4日)
桜寮では創立者がクリスマスに「すき焼き」を皆で分け合って食べた習慣が受け継がれた。



■ 入学試験 (1978年度) 受付に並ぶ受験生 (1977年)
短大・大学と志願者数を伸ばしこの年の学園全体の在籍者数は6,596名となった。



■ 桜祭り (1978年)
保護者・卒業生の集う桜まつり。八重桜が満開の時期に実施していた。



■ 桜美林学園創立60周年 (崇貞学園創立85周年) 記念式典 (2006年5月27日)
国内外から多くの来賓が列席した60周年記念式典・祝賀会。



■ 桜美林学園創立60周年 (崇貞学園創立85周年) 記念式典 (2006年5月27日)
オーバリン大学からはジョン・エルダー氏よりオバリンの版画が贈られた。



■ 100周年記念 愛新覚羅書画作品展 (2018年4月9日)
学園所蔵の書画作品を展示。当時の天皇后両陛下もご覧になった。



■ 学園創立100周年 記念礼拝 (2021年5月29日)
創立記念日にチャペルで行われた創立100周年記念礼拝での理事長式辞。

III - 2

桜美林学園の創立と展開
学園行事と教職員

教職員

桜美林学園では、創立者 清水安三の足跡をたどることで、その偉業を偲ぶだけでなく、学園のルーツを知り、本学の使命を見つめ直すために、理事を対象とした研修会や、教職員とその家族を対象とした研修会（修養会）を行っている。研修先は、清水安三生誕地である近江だけでなく、かつての崇貞学園である陳経綸中学（北京）、安三の留学先であるオーバリン大学（アメリカ）、J. F. オベリン生誕の地であるフランスまで広がっている。また、キリスト教主義の学園として、12月にはクリスマス礼拝と合わせて教職員クリスマス祝会を実施し、教職員間の親睦を深めている。



■ 教職員家族修養会（アメリカ・オーバリン大学）（1991年8月）
創立者の留学先・オーバリン大学でその足跡をたどる。



■ 学園教職員家族修養会（フランス・アルザス）（1996年8月）
学園のルーツの一つであるJ. F. オベリンの資料を展示したオベリン記念館を訪問。



■ 桜美林学園研修会（近江）（2003年8月）
近江路の3日間、清水安三生誕地を訪問。



■ 陳経綸中学清水安三胸像の横で（2005年8月）
左から三田幸子（元短大学長）、佐藤東洋士（元学園長・理事長）、魏玉琼氏（崇貞学園卒業生）。



■ 桜美林学園理事研修会（北京）（2005年8月）
学園のルーツを訪ね北京の陳経綸中学へ赴いた約30名の研修参加者。



■ 教職員クリスマス祝会（2011年12月8日）
最後に手をつないで学園歌を斉唱し親睦を深める。